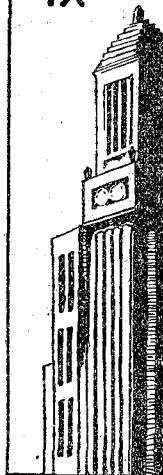


路政春秋



道路も沈む池の底

山紫水明を誇る奥多摩の小河内村は東京市の計畫に依り小河内野水池の爲め大部分が池底に沈めらるゝ事となる、有名な菩薩峠の山麓に高さ百三十九メートル、堰堤の長さ三百二十メートル、敷地幅百三十メートルの世界第二の大ダムが築造せられ、其處に一億八千四百萬立方メートルの水量を貯水するのである、あの鶴湯と稱する温泉も多摩の溪流に沿ふて甲州丹波山に通ずる道路も池底深く影を潜めるのである。帝都に近き奥多摩の秘境に異状ありと謂ふべきか。

動物舌の診斷

蘇秦張儀三寸の舌はよく天下を紛擾に導くとか、動物の舌には種々の用途に應じて諸種の形と構造とを具ふる舌が造られており。人間の二枚舌はあらずもがなであるが試みに珍らしき舌類を擧げれば、蜜蜂の舌は、二本の圓筒に分れて花から、花蜜を吸ひ上げるサイフオンの役をして居る。ライオンの舌は面が粗く、骨から肉を舐り取るのに便利に出来て居り、之で舐められると、人間の皮位は破れてしまふ。猫も粗い舌を持つて居り又ライオンと同様、飲み物を掬ひ取るときは、コツブの形になる。ジラフの舌は、物を摑む道具、高い枝に捲き付けやうに、細長く薄くなる事も出來れば、元のやうに引込ますには、厚く、短くする

注
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に渡らざる限奇想天外的の奇稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

事も出来る……蛙の舌はベタ／＼と粘着性を持つたゴムの帶のやうなもので、口腔の出端れに附いて居り、平生は咽喉の方に向いて收まつてゐるが蟲が近づくと、飛び出して之を捉へる……啄木鳥の舌は、舌端銳く、と言つても別に議論家ではなく、文字通り銳く尖つた舌を持ち、之で樹皮に穴を開ち中に居る蟲を突き刺して取り出す。鸚鵡の舌は厚くて、ソーセージのやうで、人間がこんな舌を持つて居たら、逆も物の喋れを譯ではないが、鸚鵡は之で人の口真似をするとは不思議だ……食蟻獸は、ラヂオのアナウンサーと同じで舌で食つて居る。其の舌は、薄くて、先細で蟻塚を穿ち探つて蟻を食ふ……蛇は舌で物を開くと言ふ。

蛇の舌は、二タ又になつて、鞘から出て居り、觸角の役をして居るが、音の振動に非常に敏感だと信ぜられて居る。最後に魚類は、全く舌がないが、又はあつても名ばかりのものが多く、舌を屈伸する筋肉は見當らないとA新聞にあつた。

個人主義是か

思想的にも精神的にも科學的にも解消しきれないのが個人主義である、立法界にも

週間とは何事ぞ

教育界にも宗教界にも將又醫學界にも絶へず個人主義がまとひついて居る、だが時世の反映で個人主義から全體主義へ移り行く

と見るは謬見である、共同團體、家、市町村、國といふ共同責任を以て構成されて居る所には好むと好まざると認識すると認識せざると拘はらず全體主義が最後のものである、いつの世、いつの時でも此の理は變しない。立法上にも企業上にも施工上にも

も此處に深甚の注意を拂はねばならぬ。

一村の興廢既に決す

埼玉縣入間郡植木村は僅々百七十八戸に過ぎない小村であるが一人の村穂溝納もなく

既往五十年間、苦闘の裡にも村内は平和に充たされて居つたが昨年小學校々舍焼失の

厄に遭遇して將來子孫の苦惱を思ひ終に一村としての存在を繼續するの實力を缺くが故に廢村に決定した、村民の胸中や如何。

銑鐵鑄物の影も消ゆ

國防資源調整の國策に基く銑鐵鑄物の製造制限は愈々五月十五日から實施せらるゝ

事となつた、地方長官の許可を受けなければ其製造が禁止される物品は文鎮、鉛筆削り、インキ壺、ホツチキス、貯金箱、火鉢、茶道用風呂釜、天水鉢、扇風機(工業用を除く)、鏡臺、煙草セット、灰皿、花器、水盤、燈籠、火消壺、玩具、鉄、柱掛、額縫、茶卓、菓子皿、置物、電氣スタンド、電燈支柱用腕木、門柱、扇、瓦持送り、看板、風篋、窓枠分銅、椅子、金庫(手提げを含む)、帽子掛、掃除器、手摺、格子、陳列臺、街頭照明柱、電柱(欄干)、櫻、交通標

識、街路樹保護板、溝蓋、紙屑箱。

我等の家庭に異状生ず、イヤ街頭にも大異狀を見ることとなる、國民の大覺悟を求めるゝ不平を言つては相成らぬぞよ。

あるかなきかの

珍聞奇譚 (16)

○二千年前の石斧 朝鮮慶北英陽郡立岩面
安泰翼方の庭で新羅初期時代豪族の所持品

石斧八本發見された、考古學者大坂氏の鑑定によると石器時代の珍品である、同氏は

其珍品をいぢりながら次の様に云はれた。

「石斧は從來しばゝ發見されてゐるが、南鮮地方から一度に八本も多數發掘されたことは珍らしいことで、その石斧の優美に

見て相馬御風氏は『立派に王朝時代の衣冠束帶姿の貴族像で破損はひどいが堂々たる

顔容脣部の石帶など判然してゐるのは嬉しい、威容のうちに和やかな微笑を堪へたま

ことに床い彫像である、簡素な鑿の痕に非凡な日本彫刻の特徴が窺はれる、神像彫刻の優秀な作品であるが破損の甚しいのは

残念である』と語られた。

○國體明徳運動に力強い剣舟 太古の丸木船の破片がまたもや高知縣で發見され早稻

田大學の西村眞次博士を悦に入らしめて居る。夫れは人も知る西村博士は古代舟の研

究から人類の文化史をさぐり、さきに山形

長岡郡國府村を流れる國分川が大洪水に見舞はれた際南岸から發掘され、高知市帶屋町一丁目傘商堀内造氏が祕藏してゐたもの

を郷土史家寺石正路翁が發見「古代船の破片」と斷定を下し昭和七年高知懷德館に出

品せしめたもので、長さ八尺九寸五分、幅二尺六寸五分、深さ八寸五分、厚さ八分の

楠の剣舟だが西村博士の鑑定でこれが剣舟

南限は熊本縣、この間に千二百年前の寧樂文化が普及されてゐたことをしきめて居られるところ今回高知縣で發見されたので

要遺物である。

○豫の下から千年前の古神像 新潟縣西頬

城郡糸魚川町大高寺島の無格社諏訪神社の様の下から二體の木像が發見された、之を見て相馬御風氏は『立派に王朝時代の衣冠束帶姿の貴族像で破損はひどいが堂々たる顔容脣部の石帶など判然してゐるのは嬉しい、威容のうちに和やかな微笑を堪へたまことに床い彫像である、簡素な鑿の痕に非凡な日本彫刻の特徴が窺はれる、神像彫刻の優秀な作品であるが破損の甚しいのは残念である』と語られた。

○國體明徳運動に力強い剣舟 太古の丸木船の破片がまたもや高知縣で發見され早稻田大學の西村眞次博士を悦に入らしめて居る。夫れは人も知る西村博士は古代舟の研究から人類の文化史をさぐり、さきに山形長岡郡國府村を流れる國分川が大洪水に見舞はれた際南岸から發掘され、高知市帶屋町一丁目傘商堀内造氏が祕藏してゐたものを郷土史家寺石正路翁が發見「古代船の破片」と断定を下し昭和七年高知懷德館に出品せしめたもので、長さ八尺九寸五分、幅二尺六寸五分、深さ八寸五分、厚さ八分の楠の剣舟だが西村博士の鑑定でこれが剣舟の全部で岩楠舟の一種で日本人の祖先が用ひてゐた舟と判明、之れ實に考古學上の重